平成25年度　第59回夏休み良書推薦運動

読書感想文コンクール表彰式

平成25年10月12日(土)
サンセール盛岡

主　催　岩手県良書推進協議会
協　賛　岩手県学校生活協同組合
後　援　岩手県小学校長会
　　岩手県学校図書館協議会
　　岩手県ＰＴＡ連合会

式次第

一　開式のことば
二　主催者あいさつ
三　賞状並びに記念品授与
四　審査報告
五　来賓祝辞
六　作品朗読　滝沢村立鵜飼小学校　六年　赤坂諒子
七　感想発表　陸前高田市立気仙小学校　二年　菅野いぶき
八　閉式のことば

審査員

作山静男先生
大石善弘先生
畠山明美先生
大渕奈実先生
小山文明先生
田代五月先生
近藤澄江先生
齋藤英明先生
藤村由美先生

平成25年度　第59回
夏休み良書推薦運動読書感想文コンクール
入賞者名簿

『　』は図書名

〈最優秀賞〉

やさしいくろくんへ　『くろくんとふしぎなともだち』
陸前高田市立高田小学校　一年　松田　穂乃実

わたしとなき虫な弟　『ともだちはなきむしなこいぬ』
陸前高田市立気仙小学校　二年　菅野　いぶき

二人をつないだゆびわ　『ゆびわがくれたプレゼント』
宮古市立山口小学校　三年　木下　凜

もう一つのプレゼント　『ゆびわがくれたプレゼント』
陸前高田市立気仙小学校　四年　宮城　彩月

実を結んだ努力　『願いがかなうふしぎな日記』
宮古市立山口小学校　五年　杉本　桃香

未来予想図　『願いがかなうふしぎな日記』
滝沢村立鵜飼小学校　六年　赤坂　諒子

〈岩手県小学校長会長賞〉

おうちにかえったとくんとくんへ『とくんとくん』
宮古市立山口小学校　一年　佐々木　彩羽

強い気もちをもって　『れっつ！スイミング』
北上市立黒沢尻北小学校　三年　佐藤　優杏

願いをかなえるたゆまぬ努力　『願いがかなうふしぎな日記』
大船渡市立日頃市小学校　六年　船野　杏友

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

ぼくたち九人もなかよし　『くろくんとふしぎなともだち』
大船渡市立日頃市小学校　一年　近江　惺哉

「目の見えない犬ダン」を読んで『目の見えない犬ダン』
岩手大学教育学部附属小学校　四年　石亀　可梨

力強く生きる　『奇跡の一本松 大津波をのりこえて』
陸前高田市立気仙小学校　五年　佐々木　歩希

〈岩手県ＰＴＡ連合会長賞〉

しゃもじいさんから教えてもらったこと　『しゃもじいさん』
陸前高田市立高田小学校　二年　鈴木巴琉

鉄よりも大切なもの　『クマと製鉄所』
盛岡市立城南小学校　三年　佐藤航平

「ハッピー」をつかむために　『ハッピーノート』
陸前高田市立高田小学校　六年　室茉由華

〈優秀賞〉

そっくりなくろくんとぼく　『くろくんとふしぎなともだち』
宮古市立山口小学校　一年　打野健太郎

「ともだちはなきむしなこいぬ」を読んで　『ともだちはなきむしなこいぬ』
盛岡市立米内小学校　二年　下道希央

どんないのちも大切に　『目の見えない犬ダン』
大船渡市立日頃市小学校　三年　三条真歩

努力が大切　『れっつ！スイミング』
北上市立黒沢尻北小学校　四年　福島千瑛

本気でする努力　『願いがかなうふしぎな日記』
宮古市立山口小学校　五年　小川優花

一本松がくれたもの　『奇跡の一本松 大津波をのりこえて』
大船渡市立日頃市小学校　六年　新沼優斗

〈学校賞〉
宮古市立山口小学校

〈学級賞〉
大船渡市立日頃市小学校　六学年

大切にしたい気持ち　『こども電車』
陸前高田市立高田小学校　六年　石川蒼磨

〈入選〉

きょうりゅうたちがいたら　『きょうりゅうかぶしきがいしゃ』
滝沢村立鵜飼小学校　一年　赤坂祐生

なごみちゃんへ　『ともだちはなきむしなこいぬ』
陸前高田市立高田小学校　二年　小松乃彩

よかったねダン　『目の見えない犬ダン』
宮古市立津軽石小学校　三年　舘下志之

いのちのとうとさ　『目の見えない犬ダン』
宮古市立山口小学校　三年　軽部杏菜

いたずら好きな転校生　『魔女学校の転校生』
宮古市立山口小学校　三年　新田萌

あきらめない心　『れっつ！スイミング』
盛岡市立上田小学校　四年　大平瑞希

元気をくれた「奇跡の一本松」『奇跡の一本松 大津波をのりこえて』
大船渡市立大船渡北小学校　五年　森海斗

〈佳作〉

やっぱりうそはよくないね　『おばけのおうちいりませんか？』
宮古市立山口小学校　一年　山口　梨乃花

「とくんとくん」がききたいな　『とくんとくん』
宮古市立山口小学校　一年　坂下　幸音

ぼくたちの町へきてほしいな　『くろくんとふしぎなともだち』
一関市立田河津小学校　二年　佐々木　丈陽

みんなでたすけ合う　『目の見えない犬ダン』
大船渡市立日頃市小学校　三年　新沼　奈央

ナサニエルみたいになりたい
『見習い幻獣学者ナサニエル・フラッドの冒険①』
宮古市立山口小学校　三年　若江　昂充

「ゆびわがくれたプレゼント」　『ゆびわがくれたプレゼント』
奥州市立水沢南小学校　四年　渡辺　翔羅

あきらめない気持ち　『願いがかなうふしぎな日記』
大船渡市立越喜来小学校　五年　大津　暖

「こども電車」を読んで　『こども電車』
盛岡市立東松園小学校　五年　佐々木　愛梨

願いをかなえるために　『願いがかなうふしぎな日記』
盛岡市立本宮小学校　六年　手島　晴彦

動物たちの命の重さ　『100グラムのいのち』
大船渡市立日頃市小学校　六年　村上　来未

一年　最優秀賞

やさしいくろくんへ

陸前高田市立高田小学校　一年
まつだ　ほのみ

くろくんのふしぎなともだちってだれなのかなぁ。ひょうしのきしゃにのっているくれよんたちは、みんなたのしそうにしているよ。どんなともだちがでてくるのか、わくわくしながらよんでいったんだ。

くろくんってほんとうにやさしいね。ばすくんやふねくんのためにじょうずにどうろやなみをかいてあげて。ばすくんもどうろをはしって、ふねくんもなみをおいかけてはしって、にこにこしているのをみていると、わたしまでたのしいきもちになってきたよ。

くろくんをみていたら、おともだちにやさしいことをしてあげると、えがおをふやすことができるのかなあっておもったよ。わたしもみんなであそんでいるとき、「あしがいたい。」といってこまっているともだちに、やさしくしてあげたことがあるよ。みんなとぶつからないところにつれていってあげたり、おみずをくんでのませてあげたりしたんだ。ともだちは、にっこりわらって「ありがとう。」っていってくれたよ。きっとくろくんも、ともだちをえがおにしてあげようとしていたんだね。

でも、くろくんがしんかんせんくんにせんろをかいてあげているときは、ひかれないかとどきどきしたよ。だっせんして、しんかんせんくんがおおけがをしたんじゃないかってくろくんもなきながらしんぱいしていたよね。まさかばすくんも、ふねくんも、しんかんせんくんもねんどだったなんて。ふしぎなともだちは、いろんなものにへんしんできるねんどだったんだね。みんなにっこりになって、これであんしんしたよ。

わたしもくろくんみたいにいつもみんなにやさしくして、よろこばせてあげたいな。ともだちがわらって、わたしもたのしくなって。くらすじゅうを、がっこうじゅうを、えがおいっぱいにしてあげるんだ。

（図書名『くろくんとふしぎなともだち』）

〈講　評〉

穂乃実さんは、表紙の絵からこの本の内容に興味をもち、読み始めたのですね。本を読んで、不思議に思ったことやわくわくどきどきしたことを、素直な言葉で表すことができました。くろくんのやさしさにふれ、自分も友達にやさしくしようと思っているところに穂乃実さんのやさしさを感じます。また、「くらすじゅうを、がっこうじゅうを、えがおいっぱいにしてあげるんだ。」というまとめが、とてもすてきです。

二年　最優秀賞

わたしとなき虫な弟

陸前高田市立気仙小学校　二年
菅野　いぶき

「なぜこの子犬はないているのかな。」わたしは、ひょう紙の「なきむしなこいぬ」という字の下でないている子犬を見て、そのわけをしらべたくなりました。

この子犬の名前は、レオン。お母さんからはなれて、なごみちゃんの家にもらわれてきました。いつもお母さんに会いたくてないてばかりいたので、なごみちゃんは、「なきむし二本せん」とレオンをからかいました。

私には、なき虫な弟がいます。いつも、朝はなきながらおきてきます。おきたときに、ふとんにもうおかあさんがいないからです。お母さんがしごとに行くときも泣いていて、まるでレオンのようです。

わたしは、なごみちゃんみたいに、なきむしな弟をからかいます。すぐ弟はむきになってけんかになります。弟からわたしにちょっかいをかけてくるときもあります。わたしのものをとったり、きゅうにたたいてきたりして、そこが、なごみちゃんとレオンとにていておもしろいです。

すこしちがうのは、なごみちゃんとレオンは、すぐなかなおりすることです。わたしは、自分がわるかったなあと分かっていても、かんたんにはあやまれません。いつも、つぎの日までなかなおりできないので、ずっといやな気もちのままです。でも、これからは、なごみちゃんたちのように、その日のうちになかなおりして、すぐ弟とたのしくあそびたいと思います。

レオンは、なごみちゃんをまもるために、自分より三ばいも大きい犬にたちむかっていきました。なごみちゃんが大すきだったからだと思います。わたしも弟が大すきです。あしたの朝、お母さんがいなくてさびしくてないていたら、「大じょうぶだよ。」とやさしいことばをかけて、お母さんのかわりにおせわをしてあげたいです。

（図書名『ともだちはなきむしなこいぬ』）

〈講　評〉

主人公の飼い犬のレオンといぶきさんの弟さんを比べて書いていることで、どちらも泣き虫であることがよく分かりました。また、主人公を見習って、けんかをしてもすぐに仲直りをしようと考えているところには、お姉さんとしての心の成長を感じました。いぶきさんは、自分を見つめ直すことのできるすてきな本と出会うことができましたね。弟さんが大きくなったら、この本を一緒に読み、感想文に書いた思い出を語ってあげてください。

三年　最優秀賞

二人をつないだゆびわ

宮古市立山口小学校　三年
木下　凜

「わたしのゆびわ…かなちゃんにかしてあげる。」

そう言われ、主人公のかなと女の子は、それぞれのゆびわをこうかんします。かなのゆびわは、や台のくじ引きで一とうの、キラキラ光る本当にきれいなゆびわ。女の子のゆびわは白っぽい何のかざりもないもの。でも、このゆびわをはめていると、ふしぎなことがいっぱいおこります。たとえば、いつもはとれないカニがとれたり、すばやくおよぐ小魚をつかまえたり。だから、白いゆびわには何かとくべつな力があるんだと思います。

そう思ったのは、おじいちゃんが海に漁に行き、そうなんしかかったときのこと。女の子とかなはいっしょに海に出ておじいちゃんをさがしますが、その時、女の子はかなにゆびわをはめるように言います。自分がはめていてはブカブカで海に落としてしまうから。ゆびわの力がなくては月をさがせないと言いました。海があれているときに月をさがすなんてできるわけがないし、かなが海に落ちたときもお魚といっしょにスイスイとおよげるわけがありません。そして、おじいちゃんもぶじに帰ってくることができました。あれもこれも、きっと女の子のゆびわの力のおかげだと思います。

それからもう一つ。このふしぎなゆびわはかなをかえたと思いました。かながお母さんのじっかの岬に来るまでは、お母さんは弟のジュンばっかりかまっていて、自分のことはかまってくれないと思っていました。でも、おじいちゃんを海にさがしに行った夜のあとは、まだぐあいのよくないおじいちゃんに、魚をすりつぶしたおかゆを作ってあげていました。それは、お母さんが弟にやってあげているのと同じことをやっていました。それから、お母さんが電話で、岬に行くよと言っても、ジュンについていてあげてほしいと、お母さんが来ることをことわっていました。かなはなんだか大人みたいになったんだなと思いました。ほかにも、お母さんが作ってくれるコロコロおにぎりを作り、岬にあそびに来た弟に食べさせたりと、すごくかわりました。多分、女の子のふしぎなゆびわは、女の子のお母さんの思いがたくさんつまったものだから、それをつけたかなは大人に近づいたんだと思います。これまでは、自分のことばかりで、思いやりの気もちが足りなかったかなが、さみしくてつらいことを体けんしたから、やさしいお姉さんにへんしんできたように思います。

わたしは今、三年生。かなみたいなふしぎな体けんはできないけど、みんなに

「すてきだね。やさしいね。」

って言ってもらえる人になれるよう少しずつでもかわっていきたいです。そして、大人になったとき、どんな人にもすてきな自分になっていたらいいなと思います。

（図書名『ゆびわがくれたプレゼント』）

〈講　評〉

本の中に出てくる「ゆびわ」に目を向けて、ゆびわには特別な力があり、「ゆびわが主人公のかなを変えた。」を想像豊かに読んで感想をもつことができました。お話の世界に入り、様々な出来事や主人公の変化を丁寧に読んだ凜さんだからこそ書けた感想文だと思います。ゆびわは女の子とかなをつなぎ、読書によって凜さんにもプレゼントをくれました。凜さんも、きっと優しくてすてきな女の子になれると思います。

四年　最優秀賞

もう一つのプレゼント

陸前高田市立気仙小学校　四年
宮城彩月

「何か不思議な事が起こりそう。」

指輪が光るきれいな表紙の絵を見て、私はそう思いました。わくわくしながら読み始めると、これは私たちの住んでいる町のお話かもしれないという気持ちになってきました。香菜のおじいちゃんやおばあちゃんが話す言葉や、海から来るヤマセで真っ白になる風景がそっくりだからです。

香菜には、小さな弟がいます。弟がぜんそくなので、お母さんはつきっきり。弟がわがままを言っても、いつもお姉ちゃんなんだからとお母さんは香菜のことばかりおこっています。香菜のイライラする気持ちが私はよくわかります。私にも妹がいますが、いつも私のものをほしがります。

「何でほしがるの。」

と聞くとすぐに泣くので、お母さんが、

「お姉ちゃんなんだからかしてあげて。」

と言います。私は、おこってお母さんとケンカみたいになってしまいます。だから、香菜は私とにているなぁと思いました。

初めて一人で行った岬。岬での生活は、お店もないし、友達もいないし、おかずは魚ばかり…。楽しくなかったけれど、海辺で出会った女の子と不思議な指輪を交かんしたり海辺で一人で過ごしたりするうちに、自分のことをいろいろ考えました。香菜は自分がおこってばかりいたこと、お母さんから聞いた言葉について考えていました。

岬で出会った不思議な女の子。女の子のゆびわがくれたプレゼント。それは、不思議な力で嵐の中からおじいちゃんを助けてくれたことだと思います。でも、私はそれと同じくらい大切なプレゼントをもう一つ香菜はもらったのだと思います。それは、あんなにおこりっぽかった香菜が、みんなにやさしくなれたこと。前よりも人の気持ちを考えられる香菜は成長したなぁと思いました。あんな嵐の中、きらいと言っていたおじいちゃんをさがしに行ったり、体がひえきったおじいちゃんのためにおかゆを作ってあげたりした香菜が一番心に残りました。それに、お母さんに

「じゅんのそばにいてあげて。」

と心から言えた香菜、そんなやさしい香菜が私は大好きです。

夏休み、北海道にいる私のおばあちゃんが

「来年は、一人で来ない？」

とさそってくれました。飛行機などに一人で乗っていくのはまだ自信がありません。でも私もいつかちょう戦してみようかな、そんな気持ちになりました。不安だけれど、いつも一緒の家族とはなれて過ごしてみようかな。おこりっぽくなってしまう私も、みんなの気持ちをもっと考えられるようになりたいな。不思議な女の子には出会うことはできないと思うけれど、不思議な指輪はないけれど、私も香菜のように成長したい、そんなふうに思っています。

（図書名『ゆびわがくれたプレゼント』）

〈講　評〉

書き出しの一文から、彩月さんがワクワクしながらこの本を手に取って読み始めた様子が伝わってきます。そして、予想通り不思議な出来事が起こるのですが、彩月さんは主人公の香菜と自分を重ね合わせ、その気持ちに寄り添うことで、ゆびわをもらった後の香菜の変化に気付くことができました。香菜の成長を読み取った彩月さん自身が、「私も香菜のように成長したい。」と、前に一歩踏み出していることが素晴らしいと思います。

五年　最優秀賞

実を結んだ努力

宮古市立山口小学校　五年
杉本桃香

願いがかなうふしぎな日記って何だろう。何だか夢が広がっていくようでワクワクしてきた。どんな願いを書いた日記なのかいろいろ想像してみるだけで楽しくなった。

光平の日記帳は、おばあちゃんからもらったちょっぴりふしぎなものだった。そこに書かれた願いは、

「水泳で泳げるようになった！」

「もう一度石原さんに会いたい。」

などといっただれでもが体験した事がある平ぼんなものだった。ちょっとがっかりした。もっと夢のある大きな願いだと期待していたから。

でも、よく読んでいくと光平は、私に欠けていたもの、私が今やらなければならない事を教えてくれた。

光平の努力を一つ一つ応援しながら、今までの出来事をふり返ってみることにした。

私は、二年生の頃泳げずくやしい思いをしていた。水泳教室にも行った。学校のプールにも休まず通った。やっとのことで二十五メートル泳げるようになった時のあの充実感、達成感は忘れられない。

その後、今度は五十メートルを目指し、さらに努力した。そして、ついに水泳選手にも選ばれるまでになった。夢のようだった。泳げなかった私がうそのように思えた。

そのとき、初めて光平の気持ちが分かった気がした。努力が私を変えたのだ。そして、光平もまた努力で自分の弱さを乗りこえ、自分を強くしたのだと思う。

でも、光平が一人で石原さんの元へ行った事は、まねできない。一人でなんて行けるわけがない。そんな勇気なんて持っていない。一人で電車に乗って、知らない町に行くなんて、考えただけでもドキドキしてしまう。

なぜ、私にはできないのか。どうして光平はやってのけたのだろう。

その違いは、日記にあった。光平は、日記に計画から実行へと自分の動きをイメージして書きこんでいる。書くために考える。考えるためにいろいろと調べる。そうしながら、少しずつ勇気と自信を身に付けていったのではないだろうか。

ふしぎな日記は、魔法じゃなくて、どこにでもある日記だったんだ。でも、その日記には「努力」という魔法がかかっていたのだろう。さらに「強い心」とか「考える力」など人をたよりにするのではなく、自分自身をきたえていくすてきな魔法がかけられていたのだとも思った。

光平は未来日記を一つ一つ自分の努力で確かなものとし、たくましくなっていった。努力はうそをつかない、うらぎらないというけれど、光平がその事を証明してくれた。

さて、今の私が日記にかける魔法は「自分を信じてちょう戦する勇気」かな。そして、努力が実を結ぶ体験をどんどんしていきたい。

（図書名『願いがかなうふしぎな日記』）

〈講　評〉

桃花さんは、本の題名に引かれて、この本を読みましたね。同じように感想文でも、読みたくなるような題名を付けました。

主人公の光平の考えに共感し、自分のやるべきことに気付き、努力し続け、その達成感、充実感は、本人でなければ味わえないですね。「努力が私を変えた」と自覚できたことは、人間として成長したあかしです。最後の一行、「努力が実を結ぶ体験をどんどんしていきたい」に、力強い決意を感じます。

六年　最優秀賞

未来予想図

滝沢村立鵜飼小学校　六年
赤坂諒子

「書いた望みをかなえてくれるのは、おばあちゃんじゃない。ぼくなんだ。」

この光平の真っすぐな一言に私はひかれた。

光平は、広末小学校の五年生だ。去年、おばあちゃんから、書けば願いがかなうという不思議な日記をもらった。おばあちゃんに、

「望みはこれに書いておくといいよ。きっとかなうから。」

と言われて、光平は「げっ」と言いそうになった。それは、低学年が使いそうな絵日記ノートだったからだ。それに、日記は望みを書く物ではない。その日にあった出来事や一日の反省を書く物だからだ。私も同感だ。日記は過去についてふり返って、ああすればよかったとか、今度はこうしようとかを書くものだと思う。でも、おばあちゃんがいう日記は、なりたい自分を予想して未来の事を書くということだ。もしかしたら、おばあちゃんは、今、何をしても一歩ふみ出せない光平のことをわかっていたのかもしれない。

光平は三年生の時から、〝オボレンジャー〟というあだ名をつけられていた。私も三年生の一学期は十メートルぐらいしか泳げなくて一番下のクラスだった。でも、夏休みの間プールに行って一所けん命練習したら、五十メートル泳げるようになって、二学期からは一番上のクラスになってみんなに驚かれた。何とも言えない最高の気持ちだった。息つぎが下手で、苦しくてつらかったことなんて、一しゅんで忘れた事を思い出す。光平は、日記の六ページ目に書いた「ぼくは泳げるようになった！」を養老渓谷で何度も何度も練習して、ついに〝オヨゲルンジャー〟になった。

光平は、自分の事だけではなく、公園で出会った避難所にいるおじさんのふるさとに帰るという夢を実現させてあげたくて、日記に書く。そして、読書感想文を書き終えたや、石原さんに会いたいなど十個の望みを次々に実現していく。

私は、魔法で願いがかなったのではなく、光平自身がかなうことを望み、そして努力した結果なんだと思う。光平は、弱くてずるい自分に打ち勝って、正しく、そして強い自分を尊重したんだ。

「〝もし〟は言わない約束だ。やると決めたら、もう迷うのはやめて、ちゃんとやらなければ」ついに、光平から迷いが消えた。

おばあちゃんがくれた日記は、一つのきっかけだったんだ。

私は今まで、何か自分の思い通りにいかない事があった時や迷った時、アドバイスも聞かず、今までの光平のように途中でやめてそのままにしたり、投げ出したりしていた。

小学校最後の夏休みも、もう終わる。残り少ない小学生という時間を、この日記のように、理想の自分と比べて、今までできなかったことを実現するために、私も〝未来予想図〟を日記に書こうと思う。

（図書名『願いがかなうふしぎな日記』）

〈講　評〉

インパクトのある題名に引き込まれました。

「普通の日記」と「願いがかなうふしぎな日記」について、その違いを考え、光平の意識の変化を読み取り、自分を重ね合わせながら、自分の言葉で素直に思いを綴り、上手にまとめました。

是非、「未来予想図」を日記に書き、実現するよう期待しています。

これからも良い本を沢山読み、また素晴らしい感想文を書いてほしいです。

岩手県小学校長会長賞（低学年）

おうちにかえったとくんとくんへ

宮古市立山口小学校　一年
ささ木　いろは

とくんとくん、げんきですか。ひすいこのおうちですいすいおよいでいるかな。

とくんとくん、かなこちゃんのおかげで、おうちにかえることができてよかったね。いくらおよぐのがとくいなとくんとくんでも、ひとりじゃでんしゃにのれないし、かなこちゃんのすいとうがなかったらとっくにひからびちゃってたとおもうよ。

すいぞくかんではひとりぼっちになっちゃったけど、おうちにかえったからかぞくやともだちにあえたかな。

とくんとくんはえらいね。まだこどもなのに、ずっとひとりぼっちでさみしいのをがまんしていたんだもんね。わたしだったら、おかあさんやおにいちゃんやいもうととはなれてくらすなんて、さみしくていちにちもがまんできないとおもうよ。

とくんとくんにはおとうさんやおかあさんいるのかな。とくんとくんはおおきいから、おとうさんやおかあさんは、きっともっともっとおおきいんだろうな。かんがえていたらひすいこにいってみたくなってきた。

ひすいこのところにあるきらきらひかるいずみも、とってもいいところだね。みずはきれいだし、とりやかえるやおさかなもいる。ずっとかえりたかったわけがわかったよ。

そして、さいごまでよんだら、ずっときになっていたとくんとくんのなまえのいみがやっとわかったよ。だいすきないずみのおとだったんだね。それだけじゃなくて、はなも、木も、でんしゃも、ぜんぶ「とくんとくん」。とくんとくんってすごくみみがいいんだね。

かなこちゃんまでみみがよくなっちゃったみたい。わたしもあしたから、もっとみみをすませて、いろんなおとをきいてみようかな。「とくんとくん。」がきこえるようになったらわたしもいつかとくんとくんにあえるかな。

それまで、ひすいこでまっていてね。

（図書名『とくんとくん』）

〈講　評〉

彩羽さんは、感じたことや考えたことを、とくんとくんへの手紙という形で、上手に表すことができました。また、とくんとくんのひとりぼっちだった時の気持ちや家族について、想像をふくらませながら読み進めていることにも感心しました。とくんとくんの名前の意味を知ることができたことは、大きな喜びでしたね。ぜひ、耳をすませて、いろいろな音を楽しんでください。

岩手県小学校長会長賞（中学年）

強い気もちをもって

北上市立黒沢尻北小学校　三年
佐藤優杏

「この次は、ぜったい優勝するから。」

クラス対抗ドッジボール大会に負けてしまったルカは、みんなにせん言しました。でも、次のスポーツ大会は水泳大会。うんどうしんけいばつぐんのルカだけど水泳だけがにが手で、一メートルも泳げません。わたしは「一メートルも泳げないのに本当に勝てるのかな。むりじゃないのかな。」と思いながら本を読みました。

友だちのミサキにさそわれてスイミングスクールに入ったルカですが、自分よりもずっと小さい子にまぎれて練習することになりました。そしておぼれてしまってマホにばかにされてしまいます。もしわたしが同じ立場だったら、はずかしいしいやな気もちになります。そして親友であるミサキにもわらわれたと知った時、とてもショックだったと思います。自分をおうえんしてくれていると思っていたミサキにうら切られたような気もちになって心がチクチクといたんだのだと思います。わたしならくじけて練習をやめてしまいたくなります。でも、ルカは、はずかしい気もちにも負けないで、自分でおふろで練習したり、ミサキに教えてもらったりして、少しずつ泳げるようになりました。ルカが練習をつづけることができたのは、優勝したいという強い気もちがあったからだと思います。

わたしは今、スイミングスクールにかよっています。泳げなかったころは、水がはなに入ったり水の中で目を開けるのがつらかったりしました。でも今までつづけることができたのは、今よりもっとうまくなりたいと思う気もちが強くなったからとだんだん水泳がすきになったからです。だからルカもわたしと同じでだんだんすきになっていったのではないかと思います。

わたしがこの本の中で一番心にのこったのは水泳大会の場面です。ルカはまだ二十五メートルをおよぐことはできませんでした。わたしは「やっぱり優勝はむりかもしれないな。」と思いました。でも「今までたくさん練習してきたからもしかしたら…。」という気もちにもなりました。二十五メートルを面かぶりクロールで泳ぎきり、ルカが一位になった時、わたしはびっくりしたのと、うれしかったのとで、うきうきした気もちになりました。そして、リレーのときには、ドキドキしながらおうえんする気もちで読み、優勝した時には自分のことのようにすごくうれしくなりました。

『せいいっぱいやれば、けっかがどうあれくいはない。』ルカが言ったとおり、優勝したいという目ひょうにむかってがんばることがとても大切だと思いました。わたしはマラソンがにが手です。わたしもルカのように強い気もちをもって練習をして、少しでもはやく走ることができるようにがんばりたいと思います。

（図書名『れっつ！スイミング』）

〈講　評〉

水泳が苦手な主人公ルカの優勝宣言を心配し、もし自分が同じ立場だったら・・・と心を働かせて読んだことが伝わってきます。優杏さん自身が水泳を習っているので、ルカがくじけずに練習する気持ちを豊かに想像することができましたね。水泳大会の場面では、まるで優杏さんがその場でルカを応援しているかのような生き生きとした書き表し方になっています。ルカから教わったことを胸に、様々なことにチャレンジしていきましょうね。

岩手県小学校長会長賞（高学年）

願いをかなえるたゆまぬ努力

大船渡市立日頃市小学校　六年
船野杏友

「願いがかなう日記」私もこんな日記がほしい。だがそんな日記は存在しない。もし、かなったとしてもそれは偶然だ。なぜなら、「願い」というものは努力をしてかなえようと思わなければだめだからだ。

光平は、かなわないと思っていてもあえて日記に願いごとを書いた。私は、かなわないのだから書く必要がないと最初思った。だが、不思議なことに書いたことが全てかなったのだ。私はどうしてか、考えてみた。そして、二つのことに気づいた。一つ目は、光平が願いごとを書いていくうちに、願いを実現するための挑戦する気持ちを持ち始めていることだ。二つ目は、この日記は願いごとをかなえるのではなく、努力やチャレンジをする光平に変える「まほうの日記」だということだ。つまり、光平が願いをかなえようとどんどん努力やチャレンジをする人間に変わっていったから、願いがかなったのだ。最初は、日記ばかりにたよって自分では何もしなかったけれど、だんだん努力をしなければいけないことに気づいていき、努力やチャレンジをする光平に変わった。もしも、この日記がかなったら、光平はずっと泳げないまま、いつまでも友達にばかにされ、「オボレンジャー。」と呼ばれていただろう。だから、この日記は、光平の運命を大きくかえた日記とも言えると思う。

私も努力することは、とても大切だと思う。勉強だって努力をして自分からやろうと思わなければできないし、努力をしなければ今の自分と何も変わらない。また、強い気持ちがなければ努力はできない。やろうという気持ちがあれば、だれだって努力やチャレンジをして願いをかなえようとすると思う。

私もチャレンジしていることがある。それは、スポ少でやっているバレーだ。私は、背が高いのでバレーをするのにみんなよりすごく有利だ。でも、最初の頃は、失敗したらどうしようとか、みんなにめいわくをかけたらどうしようとか、弱い気持ちの方が大きくて良いプレーが全然できなかった。でも今は、失敗をおそれずに、自分のプレーをすることだけを考えて、全力でプレーしている。努力ももちろん必要なことだが、それと同じくらい「挑戦する気持ち」が大切なことにも気づいた。そして、少しでも良いプレーをするために家でも練習をしている。たゆまぬ努力がいつか実を結ぶ時が来ると信じてがんばっている。

この本から「努力」や「チャレンジ」「挑戦する気持ち」が大切だということを学んだ。来年から中学校生活が始まり、今よりもっと大変なことが増えると思う。でも、この本から学んだことを忘れないで生活していきたい。そして、色々なことにチャレンジし、それを乗りこえるための努力を精いっぱいすることと挑戦する気持ちを持って生きていきたい。

（図書名『願いがかなうふしぎな日記』）

〈講　評〉

杏友さんは、この本をしっかり読み取っていることが、よく伝わってきました。よく考え、きちんとまとめています。

主人公の光平に共感し、自分の体験を交えながら、大切なことに気付き、そして学んだことを生かしていこうという気持ちが立派です。

また、題名は感想の内容が凝縮（ぎょうしゅく）されて素晴（すば）らしいです。題名のように「願いをかなえるたゆまぬ努力」を忘れずに頑張りましょう。

岩手県学校図書館協議会長賞（低学年）

ぼくたち九にんもなかよし

大船渡市立日頃市小学校　一年
おおみ　せいや

ぼくは、このほんをよんで、しんかんせんがだっせんして、ねんどになったところにびっくりしました。

ねんどくんは、いろいろなものにへんしんできます。ぼくもねんどくんみたいにへんしんできたらいいとおもいました。ぼくは、ひこうきにへんしんして、そらをじゆうにとびまわり、せかいじゅうにいってみたいです。いつもずかんでみているインドサイ、アフリカゾウ、キングコブラ、おおさんしょううおなど、ほんものにあいにいきたいです。

ねんどくんのいいところは、けんかをしたくれよんくんを、トロッコにへんしんしてのせてあげて、くれよんくんどうしをなかなおりさせてあげたところです。

いろいろなくれよんがでてきて、きれいないろでえをかいたところがいちばんすきです。

くろいくれよんくんがぼくににているなとおもいました。なぜなら、せんろをかいたり、なみをたくさんかいたりしているからです。ぼくも、かくことがだいすきなので、くろいくれよんくんとおなじだとおもいました。ときどきけんかもするけれど、みんなとなかよくすることもにています。

ぼくたちのがっきゅうは九にんです。みんななかよしだけど、けんかもします。九にんでちからをあわせてそうじをしたり、べんきょうしたりもします。くれよんくんたちはじぶんたちのいろできれいでたのしいえをかきました。くろくんのせんろはどこまでもつづき、ねんどくんのトロッコにのってみんななかよくなります。ぼくたちは、あそんでいるうちになかなおりしてしまいます。

ぼくがくろくんだったり、ともだちがくろくんだったり、だれかがねんどくんだったりして。ぼくたち九にんは、いつも「なかよし」ですごしていきたいです。

（図書名『くろくんとふしがなともだち』）

〈講　評〉

惺哉さんの学級の九人が、くろくんたちに負けないぐらいなかよしであることが、題名からも本文からもよく分かりました。惺哉さんは、本を読んで一人一人にそれぞれのよさがあることに気づきましたね。「ぼくがくろくんだったり、ともだちがくろくんだったり、だれかがねんどくんだったりして。」という表現が、とてもすてきです。これからも、九人の仲間のつながりを大切にして、教室の中で、すてきな夢を描いていってください。

岩手県学校図書館協議会長賞（中学年）

「目の見えない犬ダン」を読んで

岩手大学教育学部附属小学校　四年
石亀可梨

わたしが、なぜ「目の見えない犬ダン」という本を選んだかというと、目の見えない犬を見た事がないし、どう助けられるか気になったのでこの本を選んでみました。

目の見えない犬と最初に出会ったのは、五才の久保田望さんと石川希さん、そして吉藤団地の自治会長の坂本義一さんでした。希さんが川に流されているダンボール箱の中に生き物が入っているから取るようにお願いすると、その箱の中にはなんと子犬が入っていました。その子犬を立たせてみると目が見えないからくるくる回ってたおれてしまいました。

家に帰った望さんは、お母さんに犬をかってもいいかさっそく聞いてみましたが、

「団地ではペットをかってはいけないの。」

と言われてしまいました。でも、望さんはあきらめずに何度も聞きましたが、

「だめなものはだめです。」

とお母さんにきっぱり言われてしまいました。わたしは、とてもかわいそうに思いました。それに目の見えない犬だからふつうの犬よりも、大切に育ててあげないとだめじゃないかなぁと思いました。どうしても犬がかえないので、自転車おき場にお友達をよんで相談して、大人にばれないように団地でかうことにしました。わたしは、犬を育てるのはいいけど大人にひみつでやる所がだめだと思いました。団地で犬をかうなら大人にきょかをえたり、団地のみんなに知らせたりするのが正しいと思います。

ひみつにしていた事がとうとう大人に見つかってしまいました。望さんはお母さんに、

「すぐどこかに、すててきなさい。」

と言われました。わたしは、子犬にとっても望さんにとってもいやな言葉だと思いました。理由は、目が見えないからくるくる回ってたおれてしまったり、食べ物を探すのにもこまってしまうと思ったからです。

望さんたちは、目の見えない犬をかってもいいか坂本さんの所へ聞きに行きました。

「盲導犬は、目の見えない人を助けるのに、目の見えない犬はどうしてすてられるの。」

と望さんが坂本さんへ強く言いました。坂本さんは、望さんに強く言われて動かないといけないと思ったので、団地のみんなをよんで子犬の説明をしました。みんなは、なっとくしてかってもいいとゆるしてくれました。子犬の名前は、団地でかうので「ダン」です。

わたしは、犬をかう事ができてよかったと思いました。

わたしは、ダンをかってもいいか団地のみんなに聞いてくれた坂本さんは、ダンを必死にすくってあげようと頑張っていたと思います。坂本さんや望さんたちのように、わたしも友達にやさしくしていきたいし、人に伝える力もしっかりつけていきたいです。

（図書名『目の見えない犬ダン』）

〈講　評〉

目の見えない子犬を助けたいと一心に思う望、きまりだからといって反対するお母さん、何とかしてあげたいと思う自治会長の坂本さん、それぞれの立場を理解しながらも可梨さんらしい考えをもつことができました。「どうなのかな。」と疑問を感じながら読むことも大切な読み方です。また、お話の鍵となる望の言葉をしっかりととらえることができました。人物の優しさや行動力を感じ取った可梨さん、きっと友達に優しくしていけると思います。

岩手県学校図書館協議会長賞（高学年）

力強く生きる

陸前高田市立気仙小学校　五年
佐々木　歩　希

「おおーい、だれかいねえのがー？」
しかし、だれの返事もかえってこなかった。一本松は、ある日とつぜん、ひとりぼっちになった。
ぼくは最初のこの三行を読んだだけで、あの大津波を思い出した。真っ黒い波が建物をのみこみ、
「バギバギー。」
と大きな音とともに全てが流されていった。ぼくたちは、小学校のすぐ近くの小高い山のしゃめんからその様子を見ていた。もう少しここに上るのがおそかったら、今頃あの波の中に…。そう思うとこわくてこわくて、何もすることができずに、その様子をただ見ていた。大好きな気仙町、そして陸前高田市が津波にのみこまれていった。たくさんの家、たくさんの車、そしてたくさんの命が流されていった。大きな自然の力の前に一本松だけでなく、ぼくたちはみんな無力だった。
一本松はたくさんの仲間を失った。高田松原に青々と広がっていた七万本の松は一しゅんでなくなった。その中でたった一本、津波を三度経験している比かく的大きかった一本松だけが生き残ったのだ。生き残れる強さが一本松にはあったし、周りの松が守ってくれたのだと思う。ぼくも生まれ育った家を流された。ぼくの家族はみんな大丈夫だったが、友達のお父さんは職場にいて流された。ぼくたちもたくさんのものを失った。
でもぼくたちは全国からたくさんの支援をいただいた。たくさんの方がぼくたちを支えようとしてくれた。ぼくが一番心に残っているのは、東京から自転車で仮設の集会場に来てくれた人だ。
「みんなで楽しもうと思ってきた。」
と言って、紙しばいと人形を使い、楽しい話を演じてくれた。ぼくはその日、久しぶりに明るい気持ちになった。また、盛岡に招待されて、オールスターゲームを見に行ったこともあった。大きなホームランを見て、
「ぼくも打ちたい。がんばろう。」
と思った。前向きに取り組む勇気をもらった。
一本松にも助けようとする人がたくさんいた。一本松の命をつなぐために力をつくしている人たちだ。その人たちのおかげで、加工され今はモニュメントになったが、今も一本松は復興のシンボルであり続けている。また、枝の先のつぎ木した松や、松ぼっくりの種から育てた松も元気に育っている。奇跡の一本松は、ぼくたちを支える希望の一本松になっているのだ。
ぼくは今でも地震がこわい。学校で地震がおきると手が震えてしかたがない。でもぼくたちには友達や家族、そして支えてくれる人たちとの絆がある。そして、この大津波をのりこえた『奇跡の一本松』が、ぼくたちを見守っている。ぼくは、勇気を持って前に進みたい。そして、力強く生きたい。

（図書名『奇跡の一本松　大津波をのりこえて』）

〈講　評〉

大津波で歩希君の家が流された生々しい体験をしたあと、この本と出合ったのですね。大きな自然の力の前には、人間は無力だと実感し、一本松に思いを寄せながら、全国からの支援を力にし、前向きに取り組む勇気を持ったことは素晴らしいことです。
少し気になったところは、「ぼく（たち）は」の使い方です。省いてもよい箇所も考えると、更に、良い感想文になります。
勇気、前進、力強さを忘れず頑張ってね。

岩手県ＰＴＡ連合会長賞（低学年）

しゃもじいさんから教えてもらったこと

陸前高田市立高田小学校　二年
鈴木巴琉

しゃもじいさん、今もお寺で元気にはたらいていますか。きっと、お寺のおしょうさんや小ぞうさんに大切につかってもらっているのでしょうね。

しゃもじいさんは、おしょうさんに、

「こんなこわれたきたないもの、つかえんわい。」

と、言われた時とてもかなしかったんだね。くやしくておばけになって、おしょうさんをこらしめようとした気もちがよく分かるよ。だって、人間のためにがんばってはたらいてきたのに、そんなこと言うなんてひどいよね。

しゃもじいさんは、小ぞうさんたちにしゅうりしてもらってよかったね。たきたてのあつあつごはんをよそっているしゃもじいさんは、とてもしあわせそうな顔をしているよ。人間が、ものを大切につかうことが分かったから、しゃもじいさんやなかまたちは、とてもよろこんでいるんだね。

ぼくは、しゃもじいさんから二つのことを教えてもらったよ。

一つ目は、ものに心があるということだよ。ぼくは、家にかえるとおやつを早くたべたくて、ランドセルをほうりなげていたんだよ。しゃもじいさんをらんぼうにつかっていた人間とおなじことをしていたんだね。今思うとランドセルは、ぼくになげられていたくてかなしかったんだね。

二つ目は、ものを大切につかわなければならないことを教えてもらったよ。もし、しゃもじいさんに会わなければ、ぼくのランドセルは、ぼろぼろになっていたかもしれないね。これからは、家にかえったらつくえの上にやさくしおくからね。だって、ぼくのためにまい日道具を入れてくれるものね。もし、どこかこわれたら小ぞうさんみたいにしゅうりして六年間大切につかうからね。しゃもじいさん、大切なことを教えてくれてありがとう。

（図書名『しゃもじいさん』）

〈講　評〉

巴瑠さんは、しゃもじいさんに寄り添って、その時、その時の気持ちを豊かに想像しながら読み進めることができました。それと同時に、一緒になって悲しんだり、喜んだりして読書を楽しみました。しゃもじいさんから「ものを大切に使わなければならない」ことを教えてもらい、ランドセルを六年間大切に使おうと決意した巴瑠さん。きっと、ランドセルも喜んでいると思います。これからも、物の心を考える巴瑠さんでいてください。

岩手県ＰＴＡ連合会長賞（中学年）

鉄よりも大切なもの

盛岡市立城南小学校　三年
佐藤航平

「鉄がなきゃ、こんなにたくさんのたて物や物は、少なかったんだろうなあ。」

ぼくといっしょに本を読んだお父さんが、まどの外を見ながら言っていました。ぼくも、「そうだよなあ。」と思いました。たしかに、鉄がなかったら、鉄ぼうや、電しんばしらもなかったはずです。ぼくたちのみじかなところに鉄は、たくさん使われているのです。もし、鉄がなかったら、町やたて物は、二分の一ぐらいになっていることでしょう。

ニルスは、ガンにのってたびをしている小人です。でも、強い西風にふかれて、クマのすみかに落ちてしまいました。それから、ニルスは二頭の子グマに見つかり、何どもにげようとしましたが、うまくいかず、大人のオスぐまにおそわれます。どうやったら、この気のあらいオスグマからのがれられるのでしょう。そのとき、ニルスは、一本のマッチを使って、クマをたおそうとしました。それで、クマは、よい考えがうかび、ニルスに製鉄所をもやしてもらおうとたのみました。したがわなければすぐに殺されてしまいます。けれど、ニルスは、鉄がなかったら、ここは山おくだから、みんながこんなに豊かにくらせるはずがないと思い、なやみになやんでとても強い決断をしたのです。そして、きっぱりと、

「やりたくない。」

と答えました。ニルスは、殺されてしまうのかと思って、とてもドキドキしました。それと同時に、小さな体のニルスが、とても大きく感じられました。それは、ニルスが、小さな体ででも、クマに立ち向かう大きな勇気があったからです。ぼくにできるか、ちょっと不安です。さらに、何度も読んでいると、それよりも大きな感動がありました。それは、命にかえても、いろんなものとなる鉄を守りぬこうという気もちがあったことです。鉄のために、命をかけるなんて、とてもゆうかんだなあと思いました。ニルスのすばらしさは、それだけでは、ありませんでした。自分を殺そうとしている熊を助けたのです。人間がつくり出した鉄でできたりょうじゅうが、クマの命をねらったのです。鉄は、人間の生活を豊かにしたけれど、多くの動物の命をうばってきたということに初めて気づきました。ニルスも、そのことに気づいたのでしょう。人間だけでなく、クマの命も大切にするニルスが、とてもかっこいいと思いました。

本を読んで、鉄は、いろんなものに使われていることが分かって、できるだけきずをつけないようにしたいと思いました。けれど、鉄より大事なものがはっきり分かりました。すべての生き物の命です。人間だけでなく、動物たちのためになる鉄の使い方を考えていきたいと思いました。ぼくは、将来、医者か科学者になって人間だけでなく、すべての生き物の幸せにつながる研究をしていきたいと思います。

（図書名『クマと製鉄所』）

〈講　評〉

主人公ニルスの決断や行動を繰り返し丁寧に読むことで、ニルスの勇気や思いやりに気づいたのですね。「小さな体が大きく感じられた。」、「かっこいいと思った。」という表現からニルスを尊敬する航平さんの気持ちがしっかり伝わってきます。また、鉄、生き物の命について考えをふくらませ、さらに将来の夢にまで思いを広げたことも素晴らしいですね。一冊の本と出会い、自分の考えを深めていったことが伝わってくる感想文です。

岩手県ＰＴＡ連合会長賞（高学年）

「ハッピー」をつかむために

陸前高田市立高田小学校　六年
室　茉由華

私がこの本を読もうと思ったきっかけ、それは、題名に興味をもったからです。「ハッピーノート」という題名なのだから、何かハッピーな物語なのだろう、ハッピーな出来事がきっと起こるのだろうと思い、読み始めました。

しかし、読み始めると、私の想像とは全く異なる内容だということに、すぐ気づきました。この本に登場する聡子は、私と同じ小学六年生の女の子でした。聡子は、学校でも家庭でも自分の気持ちを素直に言えず、大きな悩みを抱えていました。親との距離、友達に自分の気持ちを言えず話を合わせてばかりの自分。そんな自分を変えようと入った塾でも、空回りの連続でした。決してハッピーとは言えないなあと感じました。

ここまで読んで、私と聡子はとても似ているところがあると思いました。私も聡子のように親に素直になれず、ついつい反抗的な態度になってしまったり、友達との関係に不満やストレスや悩みをもったりしているところだからです。六年生になってから特に多くなったように思います。そんなときに私がしたことといえば、ただただ時間が過ぎるのを持つことだけです。親に対する態度を反省して自分の方から素直に謝ったり、友達との関係を少しでも良くしようと行動を起こしたりはしませんでした。小さい頃は親に対して素直になれたし、友達とも上手に付き合えていました。しかし、今は、少しの恥ずかしさと、私が何かしなくても、時間がたてばどうにかなるだろうという思いから、素直に自分の気持ちを相手に伝えられなくなっていました。そして、そのことで悩みが増えてきているように思います。自分に似ている聡子はどうやって悩みを解決していくのだろう、そんな思いで夢中で読み進めました。

聡子はある日、友達に責められていました。その言葉に私は驚きました。なぜなら、素直に相談しなかったことを責めていたのです。聡子は、素直に自分の本心を話し出しました。私だって悩んでいたんだよ、と素直に話せたのです。きっと、今まで抱えてきた心の中の重荷がすっきりしたことでしょう。それから聡子は、素直に自分の本心を話せるようになりました。ハッピーをつかむことができたのです。

私が抱えている悩みの原因。分かってはいても、なかなか一歩をふみ出して解決しようとしていなかった自分。聡子の勇気ある一歩。そして、それを引き出してくれた友達の言葉から、私も今の自分から一歩ふみ出してみたいなぁと思えました。うわべだけの言葉ではなく、素直に本心を伝えることの大切さを、聡子から教えてもらったような気がします。私も、少しずつでも前に進んで行きたいと思います。自分の力でハッピーをつかみたいから…。

（図書名『ハッピーノート』）

〈講　評〉

茉由華さんは、主人公の総子と同じ六年生で、同じ悩みを持っている。どのようにして、その悩みを解決しようとしたか。その心の動きを具体的に書いています。悩みは、簡単には解決できないと思いますが、解決の方法は見い出せたのだから、ハッピーをつかむために、あと一歩ふみ出す勇気だけです。総子が応援しています。

なお。誤字や癖字（濁音）に注意して書くと、もっと読みやすい感想文になります。